

## 令和4年度第1回兵庫県立図書館協議会 会議録

### 1 日時及び場所

令和4年10月4日(火) 15:00~17:00

### 2 出席者

協議会委員 角本会長 藤井副会長 太田委員 岡田委員 川石委員 久野委員  
齋藤委員 春名委員 船越委員 三浦委員 森玉委員

教委事務局 社会教育課杉谷課長

県立図書館 村上館長 小藤次長  
小野山館長補佐兼総務課長 谷口利用サービス課長 前川ふるさと・資料課長

### 3 議事

#### (1) 県立図書館運営状況について

館長補佐より、「兵庫県立図書館運営状況」(資料1)、「中期運営方針の自己評価」(資料2)に基づいて説明。

(委員) Twitterの職員のつぶやきに親しみを感じている。是非続けてほしい。

(委員) 図書館寄席が中止になった理由は。

(図書館) 新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。

(委員) テーマ別セット貸出等の自己評価を数値だけではなく、利用者アンケートをとり感触を調べているか。研修の感想等、文言で解説がほしい。

(図書館) テーマ別セット貸出については、学校からの依頼に基づき本を見繕い、貸出を行っています。返却の際に活用方法等のアンケートをもらい、次回貸出す際に生かしています。

(図書館) 地区別研修ではYA世代へのサービスについてのテーマで研修を行い、話題の中心はYA世代が読む電子書籍でした。

(図書館) 研修参加者にもアンケートをもらい、次の企画に生かしています。

(委員) 30年度から元年度にかけて利用者数及びレファレンス件数が伸びているのは何故か。

(図書館) 30年度は耐震工事のための休館期間があり伸びているわけではなく、元年度が通常水準となっています。

(委員) コロナ渦だとしても安定した数字であるため誇るものである。

(委員) YouTubeでのオンライン講座の受講者数、周知方法は。

(図書館) 6頁に参加人数を記載しています。対面が30人、オンラインが20人であわせて50人でした。周知方法は、チラシやホームページ等で行っています。オンライン講座は姫路市や西脇市等の遠方からも参加していただき、非来館型サービスに繋がっています。

(委員) 動画編集等も工夫してもらいたい。

(図書館) まだまだ全県的なPRは難しいが、ぜひ大勢の人に来てもらいたいです。

(委員) 対面とオンラインで、参加者の年齢層の違いはあるか。

(図書館) アンケートで年代欄を設けていないためはっきりとは分かりませんが、大きな違いはないように思います。

(委員) 「図書館の防災を考える」の研修内容は。

(図書館) 阪神・淡路大震災を例に、館内で地震が起きた場合の避難方法等を行いました。

(委員) 県立図書館としての対策は。

(図書館) 利用者を安全に誘導するための年1回の避難誘導訓練を行っています。

(委員) 避難場所(シェルター)としての機能は備えているか。

(図書館) 県として位置づけはされていないが、緊急時には受入れる必要があります。

(委員) 本棚の固定は。

(図書館) 本棚の天板同士を固定する等の対策をしています。

(委員) 防災の日などにPRしたら良いのではないか。

(図書館) 避難訓練の実務的な研修を行っているので、県立図書館にも取り入れていきたいです。

- (委員) 夏祭りを行っているのはいいことなので、親子で気軽に参加できるようにもっとPRを増加すれば、図書館の堅いイメージも脱却できるのでは。オンラインもいいが、紙をめくる事も重要である。
- (図書館) 近隣の幼稚園、小学校にチラシ配布するのが限度でしたが、子ども会連合会の「あそぼう」冊子に掲載していただけて全県にPRの幅が広がり、感謝しています。
- (委員) 電子図書も便利だが、本を生で見るのも良い。ビブリオバトルはとても面白い取り組みだと思う。ただ講座や展示等、図書館として少し手を広げすぎなのではと感じ、担当者が大変ではないか。絵本を読む等、子ども達が本に親しむという地道なところに目を向けてはどうか。
- (図書館) 図書館に足を運んでもらえるきっかけづくりとして行っていますが、職員の過度な負担にならないようにイベントの中身は精査しようと思います。
- (委員) 企画テーマが色々あり面白いが、一方的な発信になっていないか。反響や評価のやり取りもあるので数を絞ってもいいのではないか。
- (図書館) 来館された方に対して趣旨を伝える機会はないため、アンケートをとる等を検討させていただきます。
- (委員) 展示の本を手にとった記録が残るシステムがあればいいのでは。利用者が手にとった本を元に戻さず箱の中に入れてもらって、あとで手書きでカウントする方法もある。
- (図書館) 具体的に思いつかないですが、そういった機器があれば検討させていただきます。

(2) 県立図書館次期中期運営方針（令和5年度～9年度）（案）について

次長より、新たな「中期運営方針」（令和5年度～9年度）（案）（資料3）に基づいて説明

- (委員) 県立図書館は、図書館の中の図書館であるため、市町立図書館のバックアップをするうえで相互貸出を充実してほしい。また、マイナンバーカード1枚で県立と市町立どの図書館でも借りることができるようにするべきでは。
- (図書館) 図書館の担当者同士で意見交換する機会を増やし、ニーズや意見を調整しながら充実を図りたいと思います。また、マイナンバーカードを利用する事による便利さをお伝えするような形での普及啓発を進めます。
- (委員) マイナンバーカードについて、利用者のプライバシーはどう守られるのか。返却したら必ず履歴は消えるのか。
- (図書館) 返却したら履歴は消えるようになっています。
- (委員) あくまで利用カードのIDとシリアルを紐付けるのみなので、個人情報流出することはない。
- (委員) 今までは有効期限があったが、マイナンバーカードを使用すると期限がなくなるということか。
- (委員) 利用カードもマイナンバーカードも有効期限があり、切れると更新手続きが必要。期限切れを判断する機能がある自治体もあれば利用者個々の自己責任としている自治体もある。
- (委員) 県立図書館で紐付けしていれば、神戸市立でもマイナンバーカードで借りることができるのか。
- (図書館) 各図書館独自の利用カードの発行は必要です。各図書館の利用カードにマイナンバーを紐付けすれば、マイナンバーカードで借りることができるようになります。
- (委員) マイクロフィルムリーダーの機械が古い。デジタル化できないのか。
- (図書館) 内2台は修理待ちです。マイクロフィルムは経年劣化が少なく長期間保存に適しているためフィルムを購入しています。
- (委員) 5年間の取り組みとして、県立図書館の立ち位置は市町立の図書館を支え、県内の図書館活動を充実していく方向で動くという事が見てとれた。本来の県立図書館の役割というのを中期運営方針でしっかり出せたのでは。また、開館している以上人が集まるような事も必要であるため、魅力ある取り組みを進めていただければと思う。
- (委員) デジタル化にはお金がかかるが、資料費の予算なのか。システム更新にかかる予算は。
- (図書館) 資料費の中で紙媒体か電子媒体かで購入しますが、電子書籍については国の補助金を充ちし購入したいところです。システム更新の予算は主に県費です。
- (委員) 今後5年間の取り組みがかなり大変に見えるが、職員が過労になるのでは。また、誰もが

利用しやすい環境の推進とあるが、外国人や留学生は利用できるのか。

(図書館) 利用できます。

(委員) 外国図書はどのくらいあるのか。

(図書館) 日本語の図書より数は少ないが購入しており、外国人が来館された場合にはポケトークを使用し意思疎通が出来るようになっていきます。

(委員) アプリを作る予定は。若い世代はHPよりアプリをよく見ており、アプリの良いところとしてプッシュ通知もあるので、ぜひご検討いただければ。

(図書館) 研究させていただきます。

(委員) 親子読書室を「家族」という文言にできないか。今は祖父と孫、祖母と孫で出かけているのをよく見かけるため、「家族」にすると幅が広がるのではと思う。

(図書館) 検討させていただきます。

(委員) 今図書館は日本中でまちづくりの核となっている。石川県立図書館や市町立図書館もいろいろな取組みをされている。主にデザインや建築部分もあるが、その中で利用者の満足度を得るために何を提示していくのか、県立図書館を中心に市町立図書館と一緒に視察へ行き、このような場で報告していただければと思う。

(委員) 5年計画を全てフル稼働するのは難しい。最初の2～3年はこれ、後の2～3年はこれとメリハリを付け、「選択と集中」という形で事業に取り組んでいくのが望ましい。出前講座を広めていくには社会教育課や高校教育課、義務教育課、人権教育課を通じて本庁との連携をとらなければならない。国立図書館との連携でもっと情報が入るため、他府県の図書館はどのようにしているのかが県立図書館の課題解決に繋がるのではないかと。また、LINE等の活用はできないか検討してもらいたい。県行政の主要事業等との連携は、県民の県政に対する関心を高めることになり、県立図書館に行けば県が実施している事業が簡単にわかりやすく理解できる展示があるということで県民サービスに繋がるためとても良い。

(図書館) 5年計画の中で既に取り組んでいる部分も多々あり、それをどの程度密度を濃く内容の充実を図っていくのかが基本的な姿勢となっております。中には一定の予算措置が必要なものもあるため、本庁へ要求は続けていきます。他府県、国立国会図書館との連携はもっと強く取り組んでいきたいと思っております。LINE等についてはメリット・デメリットを研究し、検討させていただきます。図書館は地域の情報拠点であるため、県政に関心をもっていただくために引き続き充実していきます。